

平尾誠二さん「感謝の集い」山中さん弔辞全文

神戸新聞 <https://www.kobe-np.co.jp/news/shakai/201702/0009904992.shtml> より

平尾さん、久しぶり。相変わらずかっこいいですね。

僕は君と同じ年です。

高校生のときからずっと君に憧れてきました。

出会ってからは君のことが大好きになり、そしてものすごく尊敬しています。

君は病気が分かってからさらにかっこよく立派でした。

君の病気が分かったとき、ずいぶん進行していて、普通の人だったらぼうぜんとして、何もできない、そんな状態でした。

でも平尾さん、君は最後の瞬間まで病気と闘いました。

いろんな治療を試したね。

あるとき、「平尾さん、この治療は世界で初。やったことない治療だから、ごめん、どんな副作用が有るか分からない」と言いました。

すると君は心配するどころか顔がぱっと明るくなって

「そうか先生、世界初なんか。けいちゃん（妻恵子さん）聞いたか、俺ら世界初のことやってるんや」。そんな風に言いました。

あるとき、僕が病室を訪れた後、君はこう言ったらしいですね。

「なんか先生元気なかったなあ。大丈夫かなあ」。

君のことが心配だったんです。

僕が君を励まし、勇気づけなければならぬのに、逆にいつも僕が平尾さんに励まされていました。

君が亡くなる前の日、病室でお会いしました。

声がなかなか出せず、聞き取ることができませんでした。

でも僕が「平尾さん、もうすぐおじいちゃんやな」といったら、はっきり分かる声で「まだまだですわ」と、はにかみながら、しかし、とっつもうれしそうに言いました。

それが君との最後の会話になりました。

でも、最後の会話がそんな内容でうれしかったです。

君が元気なとき一緒に飲みに行って、いっぱいいろんなことを教えてもらいました。

一番心に残っているのは、「人を叱るときの4つの心得」。

亡くなってから思い出しました。

「プレーは叱っても人格は責めない」

「あとで必ずフォローする」。

ところが何ということでしょう。

二つしか思い出せません。

あとの二つが共通の友人に聞いても分からない。

平尾さんが「なんや先生忘れたんか。本当に（ノーベル）賞もうたんか」と言っている声が聞こえてきます。

でも2、3日前、ふと「もしかしたらメールにも書いてくれたんちゃうか」と思いました。

たくさんもらった君からのメールを一つ一つ読み返しました。

そしたら書いてくれていました。

あとの二つは

「他人と比較しない」

「長時間叱らない」。

君のようなリーダーと一緒にプレーでき、一緒に働けた仲間は本当に幸せです。

僕も君と一緒に過ごせて本当に幸せでした。

平尾さん、ありがとう、そして君のことを治すことができなくてごめんなさい。

また、会えると信じています。

そのときまでしばらく。また会おうな、平尾さん。